

## 式 辞

正門付近の桜も少しずつ色を変え、木々の緑が目に見えて濃くなるとともに、生きるものすべてに生命の息吹きがみなぎる希望の季節、この良き日に、御来賓の皆様、御臨席と保護者の皆様の御列席を賜り、令和三年度京都市立紫野高等学校入学式を挙行できますことを、大変嬉しく思いますとともに、高い所からではございますが心より御礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました、普通科二〇〇名、アカデミア科八〇名の皆さん、あらためてご入学おめでとうございます。皆さんは新型コロナウイルスの猛威で日常生活において精神的にも非常につらく厳しい一年を、努力を積み重ね、自らの力で乗り越え本日を迎えられました。これまでの努力に敬意を表しますとともに、入学を心から祝福し歓迎いたします。保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。この一年、特にお子様が本校志望を決断してから合格発表まで、コロナやインフルエンザ対策など家庭内でも落ち着かない不安な日々を過ごされていたのではないかと存じます。お子様は立派に難関を突破されました。あらためてお子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、六九期生となる主役の新入生の皆さん、今、ここからスタートする高校生活への期待と喜びで、大いに胸の高まりを感じていることと思います。今この瞬間の感激を忘れず、決意と気概を新たに充実した高校生活を送って欲しいと心より願います。また、支えていただいた恩師の先生方や保護者に感謝の気持ちを忘れることなく、高校生活を充実した三年間にしてください。教職員一同、全力で皆さんを支援・サポートしていく所存です。京都ならではの良き校風をもつ紫野高校の一員として、ともに高い志で頑張りましょう。

ここで本日の入学式にあたり、私が今思うところを二点述べ、歓迎のメッセージにしたいと思います。

まず一つ目は、「美しい清らかな心で、予測困難な時代の流れをしっかりと見極め、自分の足で歩いていく力をつけてほしい」ということです。本校は「二一世紀を自分で歩く国際人を育成する」という国際社会に貢献する壮大な夢のある教育目標を掲げています。そのためには、清らかな心で多様な考えを持つ人々を受け入れ、自分だけでなく世界中の人々が豊かな心で暮らしていけるような世界を創るために生涯にわたって、学び続けてほしいのです。具体的に言うと、『なぜ学ぶの?』という問いに対し、

自分のためとか受験突破のためということだけではなく、「皆が暮らす世界をよくするため」と言える学び方に精一杯チャレンジしてほしいということです。ここにいる皆さんはほぼ全員が難関大学進学という目標を持っていますが、いずれその先には大学や大学院を出た後、社会に出て働くことになります。そのときに何のために学んできたのか具体的にはっきり言える人は、大きなアドバンテージを持つことになります。

私は前任校で、縁があつて多くの企業経営者と話す機会を持っていました。今経営者の方々が、学生に求めている資質能力は何かご存じでしょうか？考えたことありますか？ ここで興味深いデータを紹介します。経営者の問いに対し、学生から出てくる答えは『語学力・専門知識・ITスキル・ビジネスマナー』などが上位に上がります。決して間違つてはいません。とても大切なことばかりです。でも企業経営者やその企業の人事担当者の思いと実は少し乖離しています。人事担当者が学生に不足していると感じているのは、高い順に『主体性・コミュニケーション力・粘り強さ・一般常識・課題解決力・』ということが上位に挙がってきます。つまり主体性とはチャレンジ精神一歩前に踏み出す力、そして、語学力は確かに必要で本校でも強化していますが、コミュニケーション力がなければ企業社会では使えないということです。また私が今一番注視していることで、気にかけて高校生に語る言葉は、打たれ強さです。日常生活を送っていると、都合よくいくことばかりではなく様々な困難が待ち受け、壁にぶつかり心が折れそうになることも多いです。そんな時に覚えておいてほしいことは、簡単にあきらめるのではなく『次の一手』を考えることです。まあええか、とか、もうしゃーないやん、『どうせ無理』ではなく『だったらこうしてみたら』と何か新たな発想で考えることです。

探究心はとても重要視されています。本校の授業にもユネスコスクールとしての取組や、持続可能な開発目標SDGs等を題材にしたむらさきのGAPという授業があります。興味を持って他者と協働しながらアイデアを考え納得解を見出せるように取り組んでみてください。新たな出会いや発見があると思います。いいですか、どんな困難や壁にぶつかっても、『だったらこうしてみたら』と『次の一手』を考えてください。出口の見えないトンネルがあるうとも、失敗を恐れず挑戦してみてください。できない理由を並べるのではなくどうやったらできるか次の一手を考えて一歩前に進む。歩みさえ止めなければ、必ず出口の光が見えてきます。出口のないトンネルはありません。

チャレンジする話ばかりになりましたが、予測困難な時代の流れをしっかりと見極めという言葉について少し話しておきます。本校の校長室に色紙が数枚飾っております。そ

の一つに、学術顧問でお世話になっている元国連事務次長の明石康さんの色紙があります。そこには『眼は遠くを、足は地に』と書かれています。すばらしく心に響く言葉です。この言葉の意味については、皆さんに考えていただければと思います。今は置いておきましょう。私は三月の卒業式で巣立ちゆく卒業生に次のような言葉を語りました。

人間が他の動物と違うところは、問いを立てることができるということだとよく言われます。自分の周囲を見て状況を把握し、そのうえで課題や疑問などの問いを立て、チームでその解決に向けて行動するような知のサイクル、プロセスが今の予測困難といわれている時代に必要な資質能力だと私は思っています。しかしながら、あらゆる物事に対して状況把握や判断をするとき、本当に大事なことや大切なことは中々目には見えません。だからこそ心の目を大きく開いて感じることもとても重要です。今から伝える四つの目を忘れないでください。様々な問いに対して、いろんな視点から細かく見ていく【虫の目】、物事を全体から捉え大局的に見ていく【鳥の目】、そして過去から現在、現在から未来へとつながる時の流れ、変化していく潮の流れを読み解く【魚の目】、これらはとても重要です。加えて最近はこの【虫の目】も大事だと言われています。つまり逆さの視点・逆転の発想も大事だということです。目に映るものだけではなく、あらゆる視点で物事をみてほしい。視点を変えることで今まで見えてこなかった世界が広がり新たな発想・より良いアイデアが生まれるかもしれません。客観的に思考を捉える意味で、虫・鳥・魚・こうもりの目を、悩んだときに活用してみてはいかがでしょうか。明石先生の言葉に何となくつながっているように感じたので紹介しました。

これから幾度となく皆さんに話す機会がありますが、ぜひ今日のメッセージを頭の片隅に置いていただき行動してもらえればうれしく思います。

二つ目は「志を高く持つてものごとの本質を究めてほしい」ということです。皆さんは今日から手取り足取りの義務教育から卒業し、自分の足で歩む高校生活を日々送ることになります。学習面や部活動においても、紫野高生としての誇りとプライドを持つて打ち込むことになります。達成感を味わうためには大変なエネルギーが必要です。どんな課題であっても全力で打ち込むことによって達成感と自信が生まれ、次の目標に挑戦する意欲がわきます。それは仕事でも同じです。当然のように様々な困難や課題が出てくると思います。数々の失敗もあるでしょう。失敗には必ず原因があります。その原因から目をそらさず、真摯に向き合ってください。全身全霊を込めて最後まで努力を積み重ねることにより、必ず真理が見えてきます。これを繰り返してほしいと



思います。

日本を代表しました世界的にも有名な、ある自動車メーカーの、問題解決のプロセスに欠かせないものとして、真の要因を突きとめるという考えがあります。そのためにその会社ではなぜを五回繰り返すという文化があるそうです。問題を発生させた真の要因を追求し、抜本的な解決を図るため、「なぜ」を繰り返すことにより要因を絞り込んでいくということです。長くなりますので具体的なことは省略しますが、皆さんも目の前の困難に遭遇した時には、この「なぜそうなったのか」「原因はどこにあったのか」「なぜその原因は起こったのか」「なぜ起こったことを回避できなかったのか」と繰り返し突き詰め、真因にたどりつき、解決策を見出していく努力をしてください。ものごとの本質を究めた人は風格も違ってきましたし自信も生まれると思います。自ら苦勞してなし得た自信は人生のあらゆる場面で役立ちます。大きな生きる力になるはずです。

コロナ禍の中、生活様式も劇的に変わりました。この四月に新入社員を迎えた企業の新入社員で、多くの企業のトップが語られた訓示やメッセージを少し紹介します。きつと今後高校生活を送るうえでヒントになると思います。キーワードの言葉は、変革の時代・失敗を恐れず挑戦・社会の変化を捉え、人とつながり未来を切り拓く、変化にスピード感を持って対応、工夫には限界なし等の言葉です。どうか皆さん、社会の変化に柔軟に適応し、志を高く持って本質を究める努力を忘れないでください。

以上長くなりましたが、美しい清らかな心で、志を高く持って、チームでものごとの本質を究めることこそが、国際理解者として国際社会に貢献する第一歩だと私は思います。紫野スピリットを如何なく発揮し、われわれともに、日本一世界一の国際社会に貢献する高校として世界に輝く感性豊かな学校を目指して共に学んでいきましょう。皆さんの可能性が無限であることを信じ有意義な高校生活を送られることを、心より願ってやみません。私が生きていくうえで大切にしているお気に入りの詩の冒頭部分を紹介いたします。それはアメリカの詩人サミュエルウルマンの青春という詩です。

『Youth is not a time of life — it is a state of mind』

最後になりましたが、お忙しい中、本日の入学式にご列席賜りました皆様方にあらためて感謝申し上げます。感染対策等でご不便をおかけいたしましたこと、この場をお借りしてお詫び申し上げます。今後とも本校教育活動にご理解とご支援をお願い申し上げます。私からの式辞といたします。共に生涯にわたって青春を謳歌しましょう

令和三年 四月 八日

京都市立紫野高等学校長 砂田 浩彰